

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 免疫チェックポイント阻害薬承認前後の肺がん薬物治療による予後の検討

研究の目的

進行期の肺がん治療の進歩は著しく、以前と比較して予後が長くなっています。特に免疫チェックポイント阻害薬の登場はこれまでの治療を大きく変え、長期生存する可能性が高くなっています。肺がん領域においても 2015 年 12 月からニボルマブが保険適応となり、それ以降、いくつかの種類免疫チェックポイント阻害薬が登場し肺がん薬物療法において中心的な薬剤の一つとなっています。しかし免疫関連有害事象によって免疫チェックポイント阻害薬を中止したり、場合によっては命に関わる可能性もあるため、実際にどの程度の有意義な治療であるかは定かではありません。そこで本研究では、免疫チェックポイント阻害薬導入前後で治療や予後がどのように変化したかを明らかにします。

研究実施期間： 実施許可日～2031 年 3 月 31 日

対象となる方： 2010 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までの期間、当科及び青森県立中央病院の呼吸器内科を受診し、肺がんと診断された患者さん

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院の院内がん登録情報より以下の情報を使用します。

診療録番号、重複番号、性別、生年月日、原発部位、側性、病理診断、当該腫瘍初診日、自施設診断日、来院経路、ステージ (治療前・UICC)、TNM 分類、ステージ (術後病理学的・UICC)、pTNM 分類、外科的治療の有無、外科的治療の施行日、放射線治療の有無、放射線治療の施行日、化学療法の有無、化学療法の施行日、最終生存確認日、死亡日、生存状況、死因情報、発見経緯、コメント欄、初回治療情報 (ニボルマブ、イピリムマブ、デュルバルマブ、アテゾリズマブ、ペムブロリズマブなど免疫チェックポイント阻害薬を含めた情報)

弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院の医事課より肺がん入院患者の院内がん登録データを得ます。得られた情報は本学へ提供されます。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して (これを匿名化といいます)、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対

対象者が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本研究責任者名：弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座 小山 新太郎

| | |
|-------|---|
| 本件連絡先 | 呼吸器内科学講座／小山 新太郎 0172-39-5468/h23gm144@hirosaki-u.ac.jp |
|-------|---|